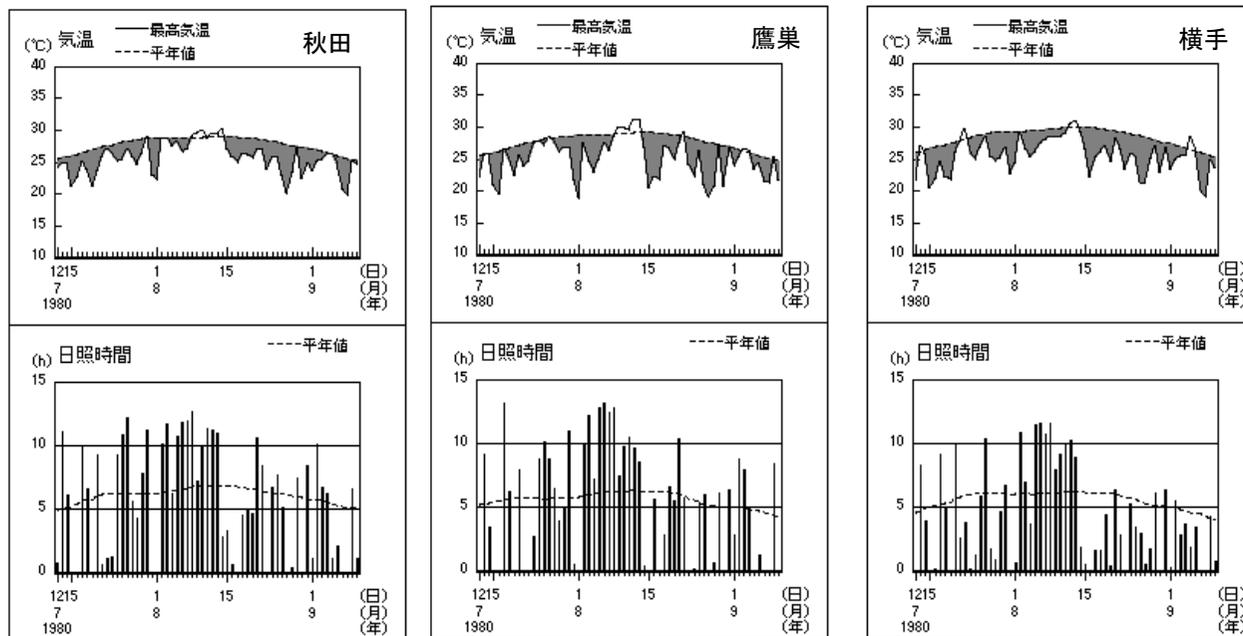


1980年（昭和55年） 7月～9月 の 低温・日照不足 による 災害  
 ～作柄の地域差顕著～

気象災害名	災害発生日	災害発生市町村				
冷害	1980年7月～9月	秋田県全域				
気象概況		気象観測値				
6月末から8月の長期間に渡り、オホーツク海高気圧の勢力が強く、また、時々北に偏った高気圧の影響を受け、東北北部は8月3日に遅い梅雨明けとなった。梅雨明け後も夏型の気圧配置とならず、気温の低い状態が続いた。秋田の真夏日日数(最高気温が30℃以上の日)は、7月が0日(平年6日)、8月は1日(平年12日)であった。特に、7月から9月の期間は最高気温が低く、日照時間は、県南部は少なく県北部と県中央部は平年並となった。		観測項目	観測値(平年差・比)	起時・期間	観測地点	
		月平均気温	22.3℃(-2.0℃)	8月	秋田	
		月平均気温	20.7℃(-2.8℃)	8月	鷹巣	
		月平均気温	22.0℃(-2.4℃)	8月	横手	
		特記事項	旬日照時間	35.2h(57%)	9月上旬	秋田
		アメダス:7地点(鹿角市八幡平、鹿角市湯瀬、鹿角など)で月平均気温の低い方から(8月)が8月として1位。	旬日照時間	34.1h	9月上旬	鷹巣
			旬日照時間	22.8h	9月上旬	横手

気象資料(天気図、レーダーエコーなど)



7月12日～9月10日(平均気温、日照時間の平年比較図)

## 被害状況－1

### 被害概況

地域的に凶作と豊作の入り混じった作柄となった。障害型と遅延型の混合型冷害に加えて穂いもちも発生し、作況指数は県平均で「99」(県北「79」、県中央「104」、県南「105」)で、県北部及び高冷地は大凶作、県南内陸平坦地は大豊作となった。やませの影響の有無で作柄の明暗が分かれた。5月中旬頃から7月上旬頃までは、高温多照で生育が順調であった。しかし、7月中旬頃から9月上旬頃までの低温と8月半ばから9月上旬まで雨や曇りの日が多かったことから県北部と高冷地の一部では不稔が発生した。県北部と県中央部は9月中旬以降の登熟期後半に好天に恵まれたが、県北部や高冷地では登熟が見込めず、被害が大きくなった。水稻の被害面積は39,274ha、被害額は約200億円になった。秋田県に天災融資法と激甚災害法が適用された。

### 参考 (写真・図等)

